学びの共同体における学び合い授業をイメージだけでも伝えたく再現してみる。50分授業を2分割、本記事はその1。原本は市教委からお借りしたDVD。2012年9月、下根中学校の数学50分の公開授業。先生は現指導主事：豊嶋先生。映像に解説付け。

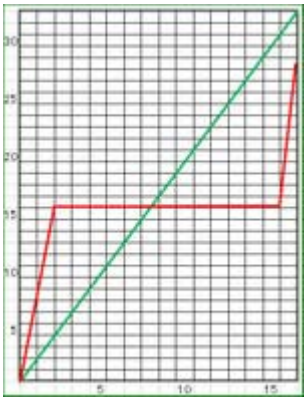
記述凡例。[**先生**：]は先生の発声、つづく「・・・」はその内容。[**生徒**：]はクラス全員の子どもたち、つづく「・・・」はその内容。（・・・・）とあるのは、その時点の観察、（・・・**です**）は解説そのもの。

単元：「1年数学　量の変化と比例、反比例」

コの字型配置机、始業ベル→起立して先生を迎える。

先生：低い声で「『ウサギとカメ』の話、知っているよね」（教師の声が低いと聴き合う関係が生まれます）。**生徒**：思い思いにつぶやいている（聴き合う関係ができていると小さな声でも学習は成立します）。**生徒の**話はここではバラバラ。（聴くことやつぶやき合うことを大切にします。ここから学びが生まれます）（そのためには机の間隔が近い方がいいです）。**先生**：一人を指名し話のあらましを語らせる。「**今の話、OK?**」と皆に。「チョット違っていたの？どの辺が違っていたの？」。子どもたちの話は少しずつ違っていることに気付く。A さんは違う記憶を話す（教師はゆっくり話すことで生徒の反応を見取ることができます）。**先生**：子どもの話をもとに「『ウサギはあとチョットでゴールというところで目が醒めて夢中で追っかけた』と『起きるとカメはゴールして喜んでいた』とがあるがどっち？」。**生徒**：再びつぶやく（コの字の体型だと友だちとの間隔が狭いので、すぐつぶやけます）3分経過。

先生：「実はその正しいお話を分析してみた。150時間位かけて」。**生徒**：「え～～マジマジ！？」の声。



完全に教師のコントロールで子どもは集中している。

先生：「**レースの模様をグラフに落としてみました**」と準備していたグラフを黒板に貼り「これが、ウサギとカメのレースの模様です」（**授業の中心となる課題を最初からだします**）「これ見るとカメがゴールしたときは、ウサギは追っかけていたの？まだねていたの？」（**高いレベルの課題だと全ての生徒の学びがスタートします**）（つぶやき**合いながら課題を共有します**）。「どっちがカメでどっちがウサギかわからないと・・」（つぶやきがつながっていきます）。**生徒**：「緑がカメで赤がウサギ・・」。隣の子につぶやいている（教師は全ての生徒の表情を見ているので**学べていない生徒**を見つけることができます）。**先生**：つぶやきからひろって「緑がカメなの？何故そう思ったの？」。（教師の仕事は**「聴くこと」「つなぐこと」「友達の意見や教科書にもどすこと」**です）。**先生**：「（グラフの）赤の横線の部分を何故、ここ睡眠時間と分かったの？」。**生徒**：「進んでいないから」。**先生**：「グラフの何処が変わっていないから？」生徒のつぶやきに**距離**という声が出る。横軸を距離、縦軸を時間と認識し始めた模様。**生徒**：「寝ていても、時間だけが進む」（生徒の表情を見ているので、次につなぐ生徒は見えています）。

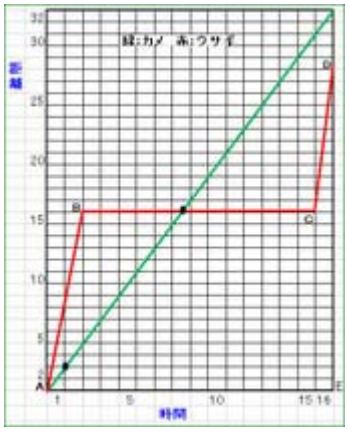
先生：「苦労して分析したグラフを（ペーパーで）渡すので、ウサギとカメの話をキチンと実況できるように

してほしい」(教師は少し待つだけで生徒は静かになり聴く姿勢ができる)。**先生**:「但し、**数学だから**その話の中に、**いくつ数字を入れられるか**」(全ての生徒の表情を見逃さない)。**先生**:「さっきの(みんなの)つぶやきで話は分かっている」(**グループにする前に、課題を明確にする**)。**先生**:「お話を**数学**にするからが一つ。二つ目はわざわざ今日はノートに考えたことを言葉にして書かなくても良いから、**このグラフに読み取っている数字を入れて、この紙(グラフ)を見ればお話しできるようにしてほしい**」「グラフを見てお話をしましょうだから、**グループの中でお話をしながら数字**を混ぜてほしい」。4人グループに机を展開。12分経過。

生徒:グループ内で思い思いに課題を話している(生徒一人一人の表情を見て、学んでいない生徒をみつけます)(グループ活動時、かかわれない生徒には必ず教師が**寄り添います**)(そして**教えるのではなく、友達につないでいきます**)(**グループの生徒たちの会話の中に素晴らしい学びがあります**)。グループの話し合いはつづく(**学び合いの授業はグループでまとめません**)。**先生は「ウサギとカメのお話」と「数学バージョンを成功させよう」と板書する。**(**グループは自分の考えを広めたり深めたりするためにあるのです**)(**学びあいは一人一人の生徒の学びを成立させるためにあります。班学習との違いです**)(だから一人一人が学んでいるかを常に観察します)15分経過。
(子どもの表情を見て、学んでいない生徒を探します)(グループに、中での話し合いの内容を聞き取ります)(関われていない生徒に寄り添い、グループの生徒とつなげます)(教師が支援したことで、グループの男子が説明をはじめました)
(子ども同士をつなげたら、**教師は長居せず、あとはグループにあずけます**)(**「できた人は教えてあげなさい」は禁句**です。**分からない生徒が自分から「教えて」ということが大切**です)(他者に依存しながら自立していく生徒を育てます。このことが**最も大切なこと**です)(教師がグループにつなげる支援をしたことで、子ども同士のかかわり合いが生まれます)→(支援した男子が正面の男子とかかわっています→正面の男子と左側の女子も笑顔になりました。**つながりが生まれた瞬間**です)→(左側の女子は男子のプリントをのぞき込み、男子をケアする様子が見られます)→(**生徒同士がつながり出すと一人一人の学びが成立していきます**)(能力差や様々な問題を抱えた生徒達一人一人が学び出しています)(大切なことは教師は、生徒のわからなさに**寄り添うこと**です。**教えることではありません**)グループの生徒たちは聴き合い、話し合っている。教師は観察を続ける(男子のわからなさをグループにつなげます)・・(**再度**男子に声をかけ、女子とかかわるように促します)(**教師のひと言**でコの字に戻します　**ここから共有がはじまります**)22分経過。

(**「わかった人は？」と発問しません**。分かっている生徒だけでつなげる授業はわからない生徒を置き去りにします)。教師の低い声(教師がつぶやくと生徒達は話をやめ、聴く姿勢ができます)。女子生徒を黒板のグラフに招き何事か？書き込む。(教師のつぶやきでまた近くの生徒と学びだします)(話に加わっていない男子に体の向きを変えるように促します。子ども同士のつながりを常に意識しています)(教師がつぶやくとまた生徒たちは話をやめて聴き出します)。**先生**:「・・と思う人」教師のつぶやきは低音で聞き取れない。(どんな発言も否定しないので、生徒は安心して発言することができます)(リボイスすることなく、友だちの発言をもとに自分の考えを見直すように配慮しています)(子どもつぶやきを聞き漏らさないようにしています)(**教師の仕事は「聴くこと」「つなぐこと」「戻すこと」です**)。**先生**:「・・・」(コの字の机の配置は、直ぐ近くの人と相談できることです)(一人では難しいと思ったときにグループの学びに入ります)

（グループの男子が先生の行動に気づき、先ほど同様に男子に支援の手を差し伸べました）（困っている子を放っておかないという教師の姿勢をクラスの子どもは授業を通して学んでいます）（**誰一人として一人ぼっちにしない**、全ての仲間を助ける事を日々の授業の中で学んでいきます）（何度もグループやコの字にしながら授業を進めていきます。グループで行き詰まったところが見えたのでコの字に戻しました）30分経過。



先生:「・・・」、一人を前のグラフに招き、なにか書き込んで戻る。**先生**:「・・・」、子どもたちはつぶやきはじめる（このつぶやきを大切にしています）。先生はある生徒の近くにゆき屈む姿勢に（膝を折って、生徒と同じ目線で語りかけます。配慮を要する生徒には徹底して寄り添います）。**先生**:「・・・」、**生徒**:つぶやき、グループ内で（誰かが話し出すと、話し合いをやめて聴く姿勢を作ります。学び合いに大切なルールです）。編者註:右のグラフは生徒、教師の記入＋教師の意図を想定。ウサギの速さは最初と2番目が違う、単純な斜線の傾斜ではないか？

先生:「・・・」、（高いレベルの学習課題を誰一人として落ちこぼれることなく学びについて行っています。つながって学ぶことの大切さです）33分経過。

生徒はグループ状態なる（教師は発表している生徒の反対側で聴いています。このことで4人全員の学びに引き込んでいます）。

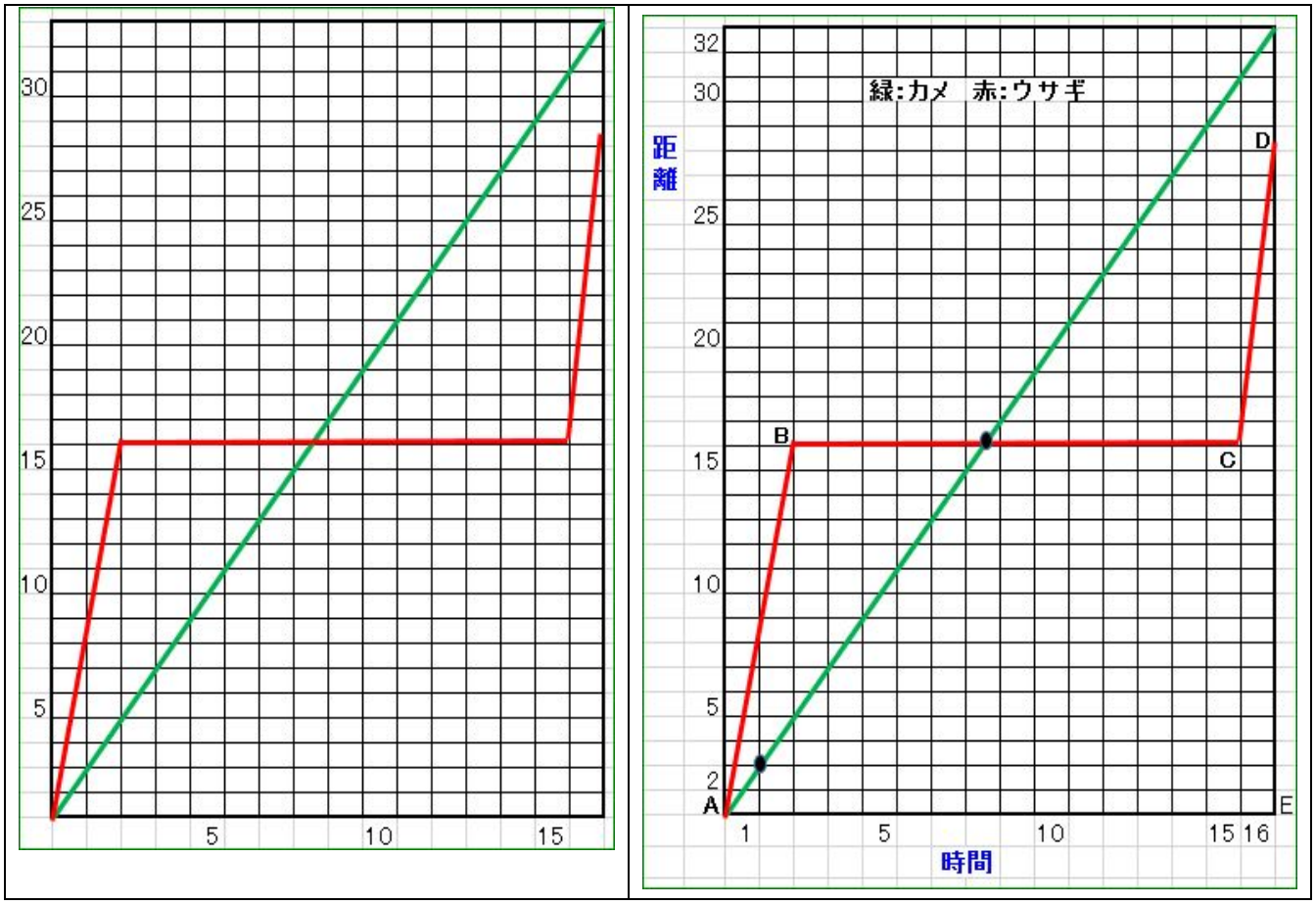
コの字に戻る。35分経過。生徒の一人が発言している模様（速さに着目し変化の割合【2年内容】へのジャンプの課題を設定します）。生徒の発言はつづく、時間に着目している模様。**先生**:「では、チョット みんなに聞いてみよう。同じように考えた人はどのくらいいるの？手をあげてみて」多数挙手。「チョット違うのだけどという人？」。**生徒**:「・・1時間で2キロだから2時間では、**比例しているから・・**」。**先生**:「いままで一カ所だけ調べればいいとかの話だったよね。いいの？」、つぶやきのはじまり。

38分経過。（次第にレベルの高い話題に入ってきます。ついて行けない生徒に寄り添います）。**先生**:「ねぇチョット聞いていい？キーワードとして何という言葉つかってくれた？」。**生徒**:一斉に「**比例**」（ジャンプの課題に取り組む中で、基礎・基本の定着も目指しています）。**先生**:「実はこのグラフにはどんな特長がある？」「二つ？」。**生徒**:一斉に「比例」。**先生**:緑の線を指して「ということは一カ所確かめれば、時間と距離は十分だなという話になるのかな？？」（生徒の学びのために、足場を作ることも必要です）。緑の線の二カ所に点を加えながら「こんな調べかたしたら、間違い？」（足場によって、生徒の学びが始まります）。

先生:「**実は今日はこれを学習したかった。**」、**比例**と板書。「比例定数ってなんだったの？」（何を考えるのか焦点化し、グループの学びにつなげます）。**Y／X=一定** を書き加える。「もう一つ一定になるものがある。それは何？」。つぶやきのなか、グループへ。

教師は歩き回りながら表情を観察。生徒に「Y イコール」等の声。コの字に戻る。**先生**:グラフを示しながら、「カメの速さを求めたい。この点は、距離は32だから、32を16で割ります。32／16。ではウサギの二番目(眠りから覚めて)の速さを求めるとき、28／16とする。いいの？」。生徒はつぶやく。 **終礼ベル**。(**最後に教師はまとめません。教師がまとめると生徒たちは考えなくなります。**)。**先生**:「チョット今日は中途になりましたが今日はここで終わりにしましょう」。「グラフの速さって、Y／X ではないと言うことは分かるよね(2番目の線は急角度)。**グラフに表れる速さって**何だろう？次の時間はこれを一つ考えて、その次にもう一度、**グラフが直線になるとはどんなことだろうということを**考えてみたいと思います」(普段はグループになって、その中で**一人一人がまとめます**。わからない生徒は友だちの助けを借りてまとめても良い)。

＞＞「1年数学 量の変化と比例、反比例」 END＜＜

拙い紙上再現になりましたが、学び合い授業の雰囲気は**解説**によって伝わったと期待しています。この記事は、授業2分割なので、一本にまとめ PDF にしています。こちらをクリックすれば表示します。

ここ数回、各校の公開授業他を拝見させていただいています。従来の知識一斉伝授スタイルから学び合いスタイルへの変化は想定を大きく上回っており、これに一丸となって取り組まれている先生方の努力に感動しました。この紙上再現よりさらに磨き上げた授業法も生まれています。**一人一人の学びを保障する学校づくり**という理念・目標のもと、先生方の一致した努力は、保護者はもとより関係者には是非知っていただきたい。今後も発信いたします。＜情報教育サポーターS.H＞